

関係各位

大阪府環境農林水産部農政室長

病害虫発生予察情報について (予報第8号(4月))

標記について、次のとおり発表します。

なお、当室では、「病害虫発生予察情報」を農業指導者向け、別途発出する「病害虫発生・防除情報メールサービス」を農業者向けとして発信しております。病害虫発生予察情報については、当該月に発生が懸念される病害虫のうち、巡回調査等に基づき発生量の多少を予報できる病害虫について主に記載しています。

《特に注意》

【もも】	せん孔細菌病
【バラ科果樹】	クビアカツヤカミキリ
【なす】	アザミウマ類
【たまねぎ】	べと病

《4月の予報概要》

A 果樹類

程度 品目	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
もも			せん孔細菌病		
バラ科果樹	クビアカツヤカミキリ(発生地域が拡大)				

B 野菜類

程度 品目	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
なす		すすかび病			
		灰色かび病			
		うどんこ病			
たまねぎ			アザミウマ類		
			べと病		
			白色疫病		
		ネギアザミウマ			

《(参考)4月の気象予報》

気温	低い (20%)	平年並 (30%)	高い (50%)
降水量	少ない (30%)	平年並 (40%)	多い (30%)
日照時間	少ない (30%)	平年並 (40%)	多い (30%)

(大阪管区気象台3月24日発表)

A 果樹

1 もも

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
せん孔細菌病	並～ やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年7月の巡回調査において、平年より葉での発生が多かった。 ・4月の降雨量は、ほぼ平年並と予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・枝に形成される病斑の除去は、感染拡大を防ぐうえで非常に重要である。開花後に春型枝病斑を見つけた場合は、早急に、健全部を含めて大きめに取り除き、園外で適切に処分する。 ・風当たりの強い園地では、防風ネットを設置するなどの対策を行う。

2 バラ科果樹

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
クビアカツヤ カミキリ	発生に注意	<p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生地域が年々拡大している。 ・幼虫は樹体内を食害し、4月～10月頃にフラス（幼虫の糞・木屑・樹脂の混合物で中華麺～うどん状に固まる）を排出する。6～8月に成虫が羽化する。 ・4月の気温は高いと予想されているため、フラスの発生が平年より早い可能性がある。フラスを見逃さないようにほ場をよく見回ることが重要である。 ・フラスが見られたら、千枚通しや針金等でフラスをかき出してから薬剤を注入する。

B 野菜類

1 なす

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
すすかび病	やや少ない ～並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年よりやや少なかった。 ・4月の降雨量は、ほぼ平年並と予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高温多湿になる施設栽培で発生が多いため、適度に換気を行い、湿度を下げる。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。QoI 剤（アミスター、ストロビー、シグナム）、SDHI 剤（アフエット、カンタス、シグナム）は、薬剤耐性菌を生じやすいので、1作1回程度の使用にとどめる。

灰色かび病	やや少ない ～並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年よりやや少なかった。 ・4月の降雨量は、ほぼ平年並と予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・咲き終わった花卉や幼果に感染しやすい。 ・20℃程度の多湿な環境条件や過繁茂で発病が多くなる。 ・QoI 剤（シグナム）、SDHI 剤（アフェット、カンタス、シグナム）は、薬剤耐性菌を生じやすいので、1作1回程度の使用にとどめる。
うどんこ病	やや少ない ～並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年よりやや少なかった。 ・4月の日照時間は、ほぼ平年並と予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・窒素過多で気温が25～28℃、湿度が50～80%で日照不足が続くと発生する。 ・QoI 剤（アミスター、ストロビー）、SDHI 剤（アフェット）は、薬剤耐性菌を生じやすいので、1作1回程度の使用にとどめる。
アザミウマ類	並～ やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年よりやや少なかった。 ・4月の気温は、平年より高いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定植時には、粒剤やかん注剤を施用する。 ・感受性が低下している薬剤が多く、発生が増えると防除が困難であるため、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 ・葉の被害に注意し、少発生時の防除を徹底する。 ・ハウス栽培では、開口部を0.8mm目合いの赤色ネットで被覆し、成虫の侵入を防止する。 ・露地栽培では、天敵昆虫の温存を図るため、ソルゴー囲い込み栽培などを行う。

2 たまねぎ

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
べと病	並～ やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年の発生は平年より多かった。 ・巡回調査では、発生は平年よりやや少なかった。 ・4月の降水量は、ほぼ平年並と予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染前に予防剤を散布する。発生を認めたら、発病株を抜き取った後、治療剤を散布する。 ・抜き取った発病株は、次年度の感染源となるため、集めては場外に持ち出し、処分する。

白色疫病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年よりやや少なかった。 ・4月の降水量は、ほぼ平年並と予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染前に予防剤を散布する。発生を認めたら、発病株を抜き取った後、治療剤を散布する。 ・抜き取った発病株は、次年度の感染源となるため、集めては場外に持ち出し、処分する。
ネギアザミウマ	並～ やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年並であった。 ・4月の気温は、平年より高いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生初期の防除に努める。 ・同一薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

●大阪府環境農林水産部農政室推進課病害虫防除グループ・ホームページ

(平成23年4月1日より大阪府病害虫防除所から組織名変更)

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/>

●病害虫発生情報メールサービス

申込先 大阪府環境農林水産部農政室推進課病害虫防除グループ・メールサービス担当

TEL 072-957-0520

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/mailservice/mailservicemousikomi.html>

<情報料無料、受信に要する通信費は自己負担です>

年間約15件の病害虫情報を電子メールで送付します。

●おおさかアグリメール

申込先 大阪府立環境農林水産総合研究所

企画部 企画グループ おおさかアグリメール受付担当

TEL 072-979-7070

<http://www.kannousuiken-osaka.or.jp/nourin/agrimail/>

最新の農業情報をあなたの携帯電話にお届けします。

<情報料無料、受信に要する通信費は自己負担です>

●Web版大阪府園芸植物病害虫図鑑

「ひと目でわかる花と野菜の病害虫」

<http://osaka-ppa.jp/zukan/index.php>

(大阪府植物防疫協会)